

2012年3月期 決算説明会



Money Partners Group

株式会社マネーパートナーズグループ



本資料は、株式会社マネーパートナーズグループの事業及び業界動向についての株式会社マネーパートナーズグループによる現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。

これらの将来の展望に関する表明はさまざまなリスクや不確実性がつきまっています。既に知られたもしくははまだ知られていないリスク、不確かさその他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。

株式会社マネーパートナーズグループは将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なるか、さらに悪いこともありえます。

本資料における将来の展望に関する表明は、2012年5月14日現在において利用可能な情報に基づいて、株式会社マネーパートナーズグループにより2012年5月14日現在においてなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。

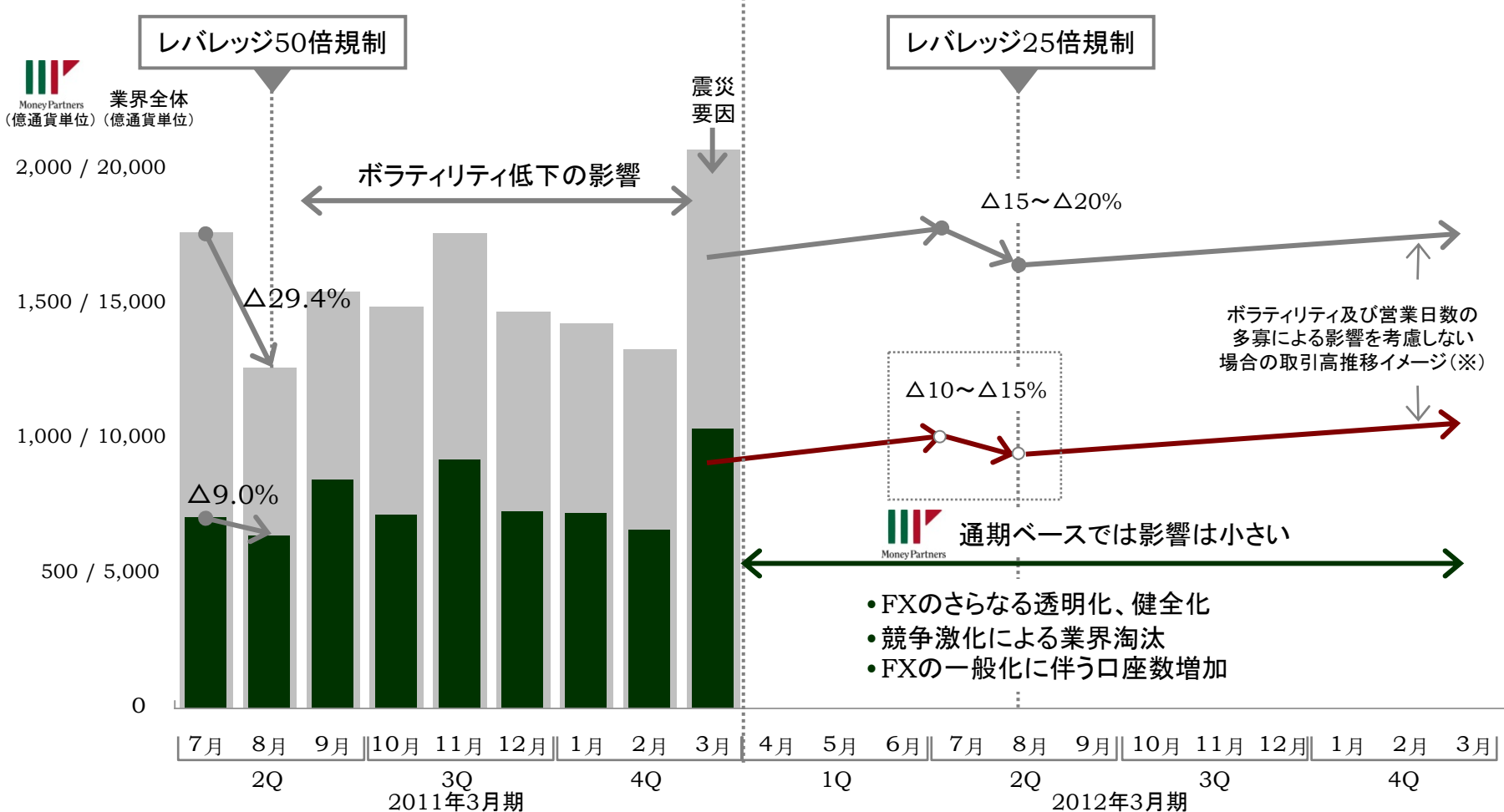


Money Partners Group

証拠金規制の影響について①(想定)

◆ 2011年8月施行のレバレッジ規制の影響は限定的であると想定

■ FX市場全取引高 ■ マネパ取引高



※業界全体および当社グループ(MP)の平均取引高イメージは当社の推定値であります。

レバ50倍規制時の当社への影響は△10~△15%と想定していたが、業界全体と比較してもマイナス影響は軽微であった。レバ25倍規制時の当社への影響は顧客のレバレッジが平均30倍程度(規制前)であるため、業界全体に比ベインパクトは軽微と推定。

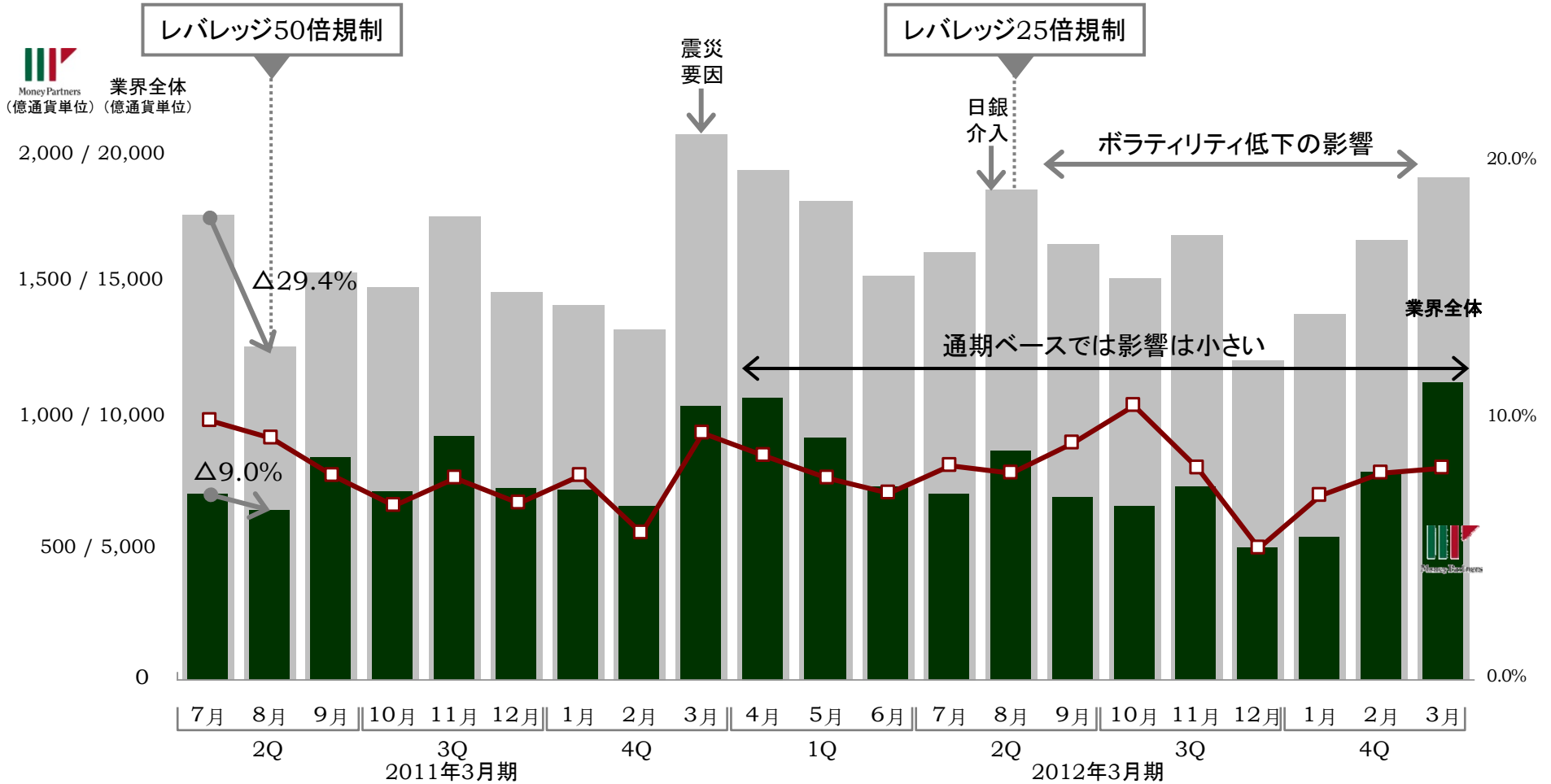


証拠金規制の影響について②(実際)

Money Partners Group

◆レバレッジ25倍規制の影響は限定的

■FX市場全取引高 ■マネパ取引高 □主要通貨加重平均ボラティリティ



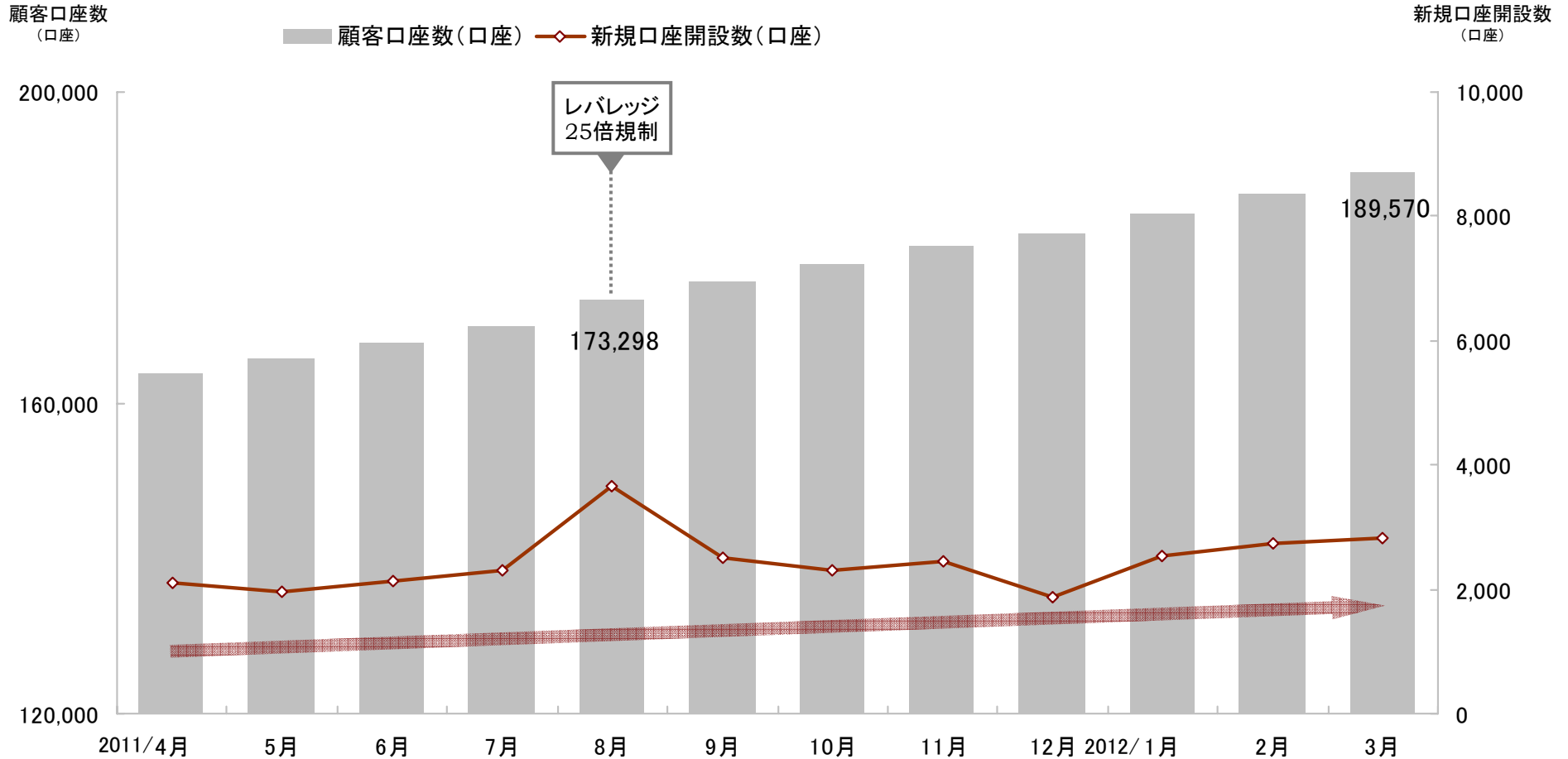
2011年8月は日銀介入による市況の混乱で一時的にボラティリティが高まり、25倍規制直前の7月と比べ取引高が増加した。ボラティリティの影響を除くとレバレッジ規制の影響はほぼ想定通りであったと考えている。



Money Partners Group

証拠金規制の影響について③(顧客基盤)

◆ 顧客基盤への影響



マネーのボーダレス化が進む中で、FX取引への注目度がUP。
 規制後も当社の口座数は堅調に増加しており、業界全体についても同様であるものと推測。

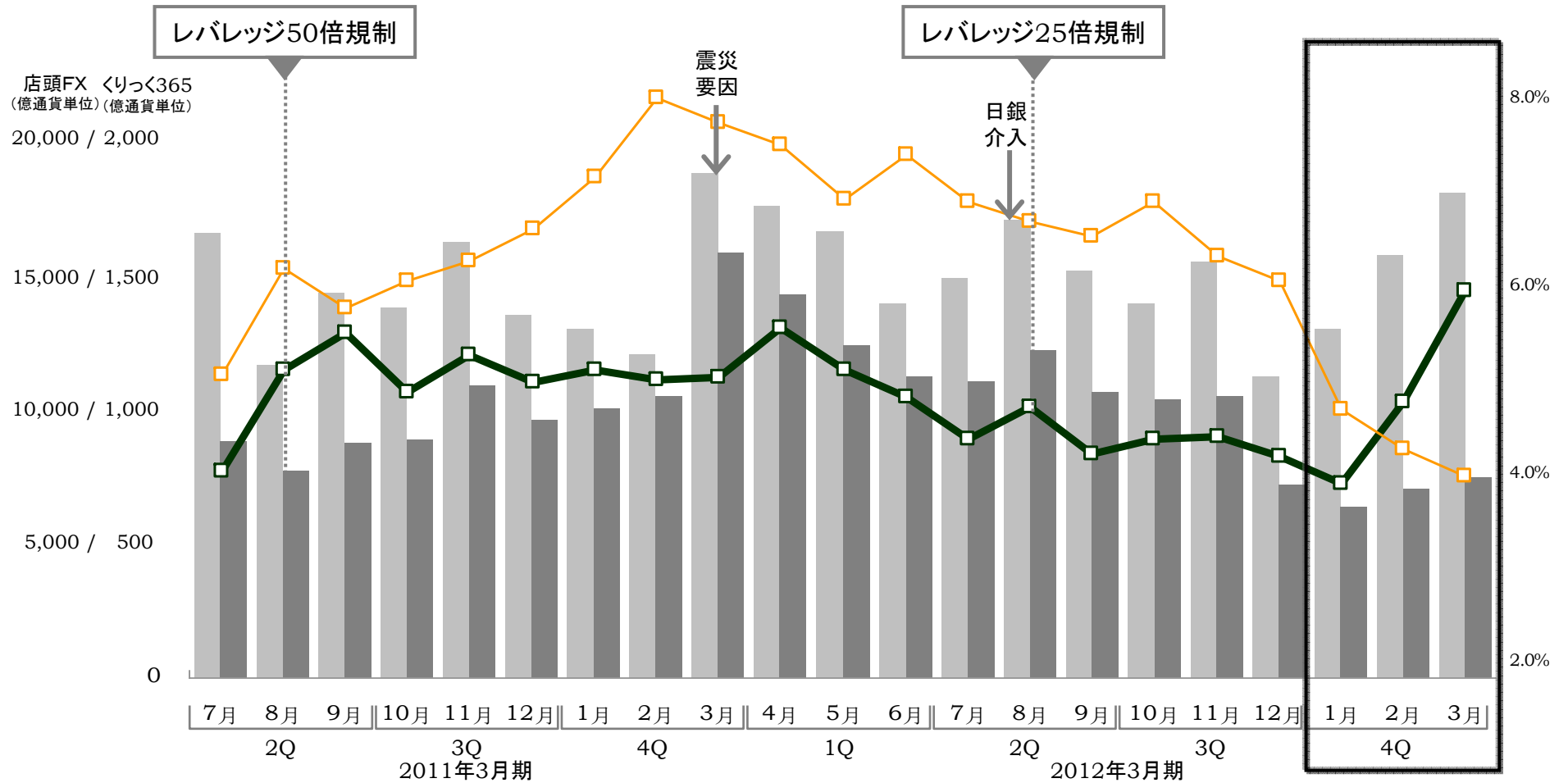


市場環境と事業の動向

Money Partners Group

◆ 店頭FX及びくりっく365取引高と当社シェアの推移

■ 店頭FX取引高 ■ くりっく365取引高 —□— 国内FX市場全体に占めるマネバシェア —□— (同左)くりっく365シェア



税制改正の影響もあり2012年1月以降のくりっく365のシェアは低迷。当社はスプレッド縮小の効果もあり大幅にシェア向上。

I .2012年3月期の決算及び事業の概況

II .2012年3月期の取組みと重点課題の進捗状況

III .今後の戦略及び重点施策

IV .当社の経営目標及び株主還元について

参考資料

I .2012年3月期の決算及び事業の概況





2012年3月期 連結決算総括

- 口座数は堅調に増加し前年度末から約3万口座増の約19万口座まで拡大
- 預り証拠金も顧客基盤拡大に伴い39,034百万円へと大きく増加
- 外国為替取引高はボラティリティの低下やレバレッジ25倍規制等の影響等により6.1%減少
- 外国為替取引高減少に加え、業界における競争激化等を背景に取引高当たり収益率も低下した結果、営業収益は14.6%減少の7,671百万円に、経常利益は527百万円と減収減益に
- 営業収益の減少に伴い経常利益は527百万円、当期純利益は337百万円に大きく減少

	2011/3期 【2010/4 ~ 2011/3】	2012/3期 【2011/4 ~ 2012/3】	前期比
顧客口座数	161,785口座	189,570口座	17.2%
預り証拠金	32,152百万円	39,034百万円	21.4%
外国為替取引高	988,542百万通貨単位	928,570百万通貨単位	△6.1%
営業収益	8,981百万円	7,671百万円	△14.6%
経常利益	990百万円	527百万円	△46.7%
当期純利益	515百万円	337百万円	△34.4%

※取引高には2011年8月より開始したCFDに関する数値を含めております。



2012年3月期第4四半期 連結決算の総括とポイント

- ① 口座数は約19万口座と順調に拡大。預り証拠金も口座数の拡大に伴い前四半期比3.0%増の390億円に。

総口座数	189,570口座	2012/3期3Q末比	4.2%増
預り証拠金	39,034百万円	2012/3期3Q末比	3.0%増

- ② 外国為替取引高は、スプレッド縮小施策の効果により前四半期比29.5%の増加。

1-3月取引高	約2,442億通貨単位	2011/10-12月比	29.5%増
---------	-------------	--------------	--------

※取引高には2011年8月より開始したCFDに関する数値を含めております。

- ③ 第4四半期(2012/1-3)の営業収益は1,799百万円(前四半期比6.4%減)、経常利益は123百万円(前四半期比47.8%減)となった。

- ④ 四半期純利益は経常利益の減少により前四半期比68百万円減(前四半期比50.5%減)の66百万円となった。

- ✓ 年初から外国為替相場の変動率が回復したことや、1月より継続的に実施したスプレッド縮小の効果もあり、外国為替取引高は前四半期比29.5%増となった。
- ✓ 一方、スプレッドの縮小や比較的収益率の低い通貨の取引高の割合が増加したこと等により取引高当たり収益率が低下し、営業収益が減少。経常利益が前四半期比47.8%減少し、四半期純利益も前四半期比50.5%減となった。



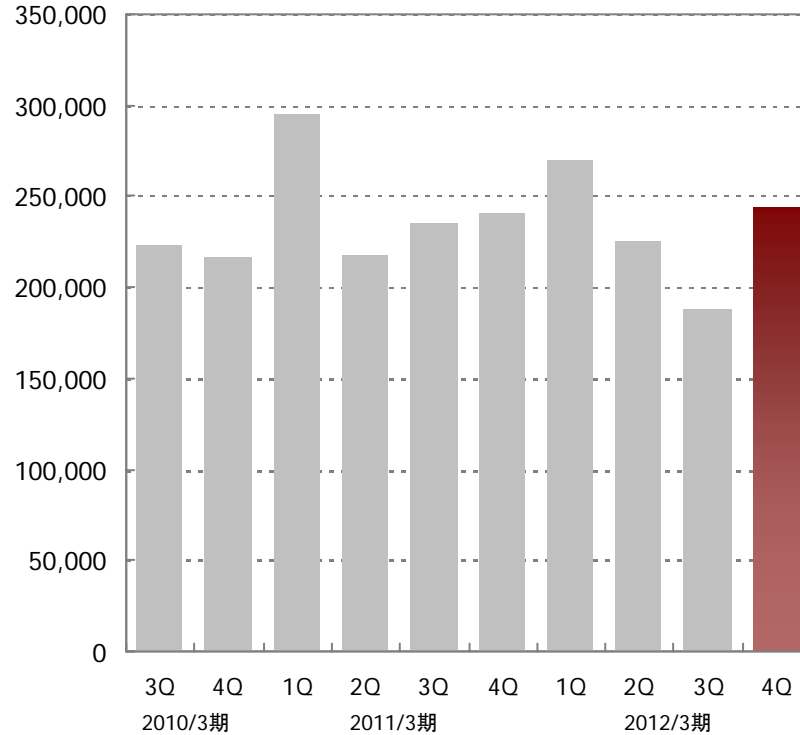
事業数値の動向

Money Partners Group

■ 外国為替取引高および営業収益の推移

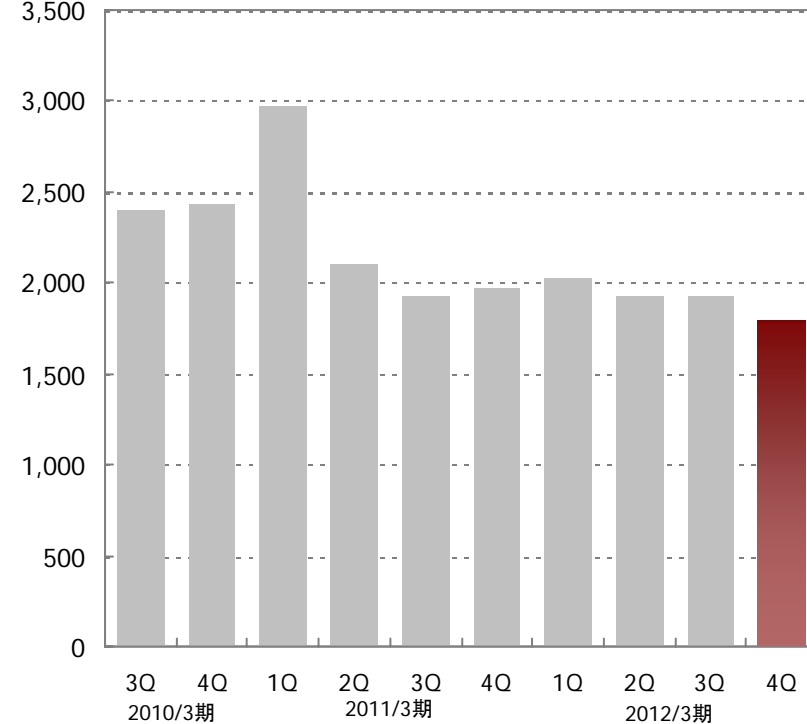
(百万通貨単位)

外国為替取引高



(百万円)

営業収益



(単位＝外国為替取引高:百万通貨単位、営業収益:百万円)

	10/3期 3Q	10/3期 4Q	11/3期 1Q	11/3期 2Q	11/3期 3Q	11/3期 4Q	12/3期 1Q	12/3期 2Q	12/3期 3Q	12/3期 4Q
外国為替取引高	223,243	213,366	295,234	217,810	235,158	240,340	270,379	225,346	188,609	224,236
営業収益	2,404	2,430	2,976	2,105	1,930	1,969	2,027	1,922	1,922	1,799

※それぞれの計数には2011年8月より開始したCFDに関する数値を含めております。



四半期業績推移

Money Partners Group

■ 四半期毎のP/L主要数値推移

単位:百万円

	2011/3期				2012/3期				前四半期 対比増減
	1Q (4月~6月)	2Q (7月~9月)	3Q (10月~12月)	4Q (1月~3月)	1Q (4月~6月)	2Q (7月~9月)	3Q (10月~12月)	4Q (1月~3月)	
営業収益	2,976	2,105	1,930	1,969	2,027	1,922	1,922	1,799	△6.4%
受入手数料	0	0	0	0	3	4	2	3	20.0%
トレーディング損益	2,955	2,077	1,920	1,958	2,015	1,903	1,910	1,786	△6.5%
金融収益	6	5	4	4	3	4	3	4	8.7%
その他の売上高	13	21	5	5	4	9	5	5	10.8%
金融費用	2	2	2	14	36	38	37	32	△12.8%
売上原価	8	14	3	1	1	5	3	3	23.9%
純営業収益	2,964	2,088	1,925	1,952	1,989	1,878	1,882	1,763	△6.3%
販売費・一般管理費	2,265	1,972	1,880	1,796	1,887	1,801	1,641	1,633	△0.4%
営業利益	698	115	45	156	102	77	241	129	△46.4%
経常利益	693	107	38	149	98	67	237	123	△47.8%
税金等調整前四半期純利益	671	107	△42	150	94	92	237	117	△50.3%
四半期純利益	394	59	△26	87	56	80	134	66	△50.5%
営業収益経常利益率	23.3%	5.1%	2.0%	7.6%	4.9%	3.5%	12.3%	6.9%	

1. スプレッドの縮小や比較的収益率の低い通貨の取引高の割合が増加したこと等により、取引高当たり収益率が低下し営業収益が減少。経常利益が前四半期比47.8%減の123百万円、四半期純利益も前四半期比50.5%減の66百万円となった。
2. 営業収益の減少により、営業収益経常利益率は6.9%となった。



四半期販管費推移

Money Partners Group

■ 販管費内訳および主要費目の推移

単位: 百万円

	2011/3期				2012/3期				前四半期 対比増減
	1Q (4月~6月)	2Q (7月~9月)	3Q (10月~12月)	4Q (1月~3月)	1Q (4月~6月)	2Q (7月~9月)	3Q (10月~12月)	4Q (1月~3月)	
取引関係費	1,369	1,079	1,010	953	973	915	781	767	△1.8%
人件費	244	240	239	222	244	244	263	261	△0.6%
不動産関係費	260	260	254	243	266	248	195	206	5.6%
事務費	230	238	216	227	233	234	237	236	△0.2%
減価償却費	116	123	129	129	124	131	135	135	0.3%
租税公課	14	13	10	0	10	11	11	12	15.8%
貸倒引当金繰入れ	0	0	0	4	—	0	△0	—	—
その他	28	16	18	14	34	15	18	13	△26.3%
販売費・一般管理費合計	2,265	1,972	1,880	1,796	1,887	1,801	1,641	1,633	△0.4%

(主要な費目)

広告宣伝費(※1)	216	237	204	132	99	147	130	125	△3.8%
システム関連費用(※2)	405	422	388	391	414	399	340	359	5.7%

※1 取引関係費の一部となります。 ※2 旧経理基準における電算機費に相当します。取引関係費、不動産関係費、事務費の一部となります。

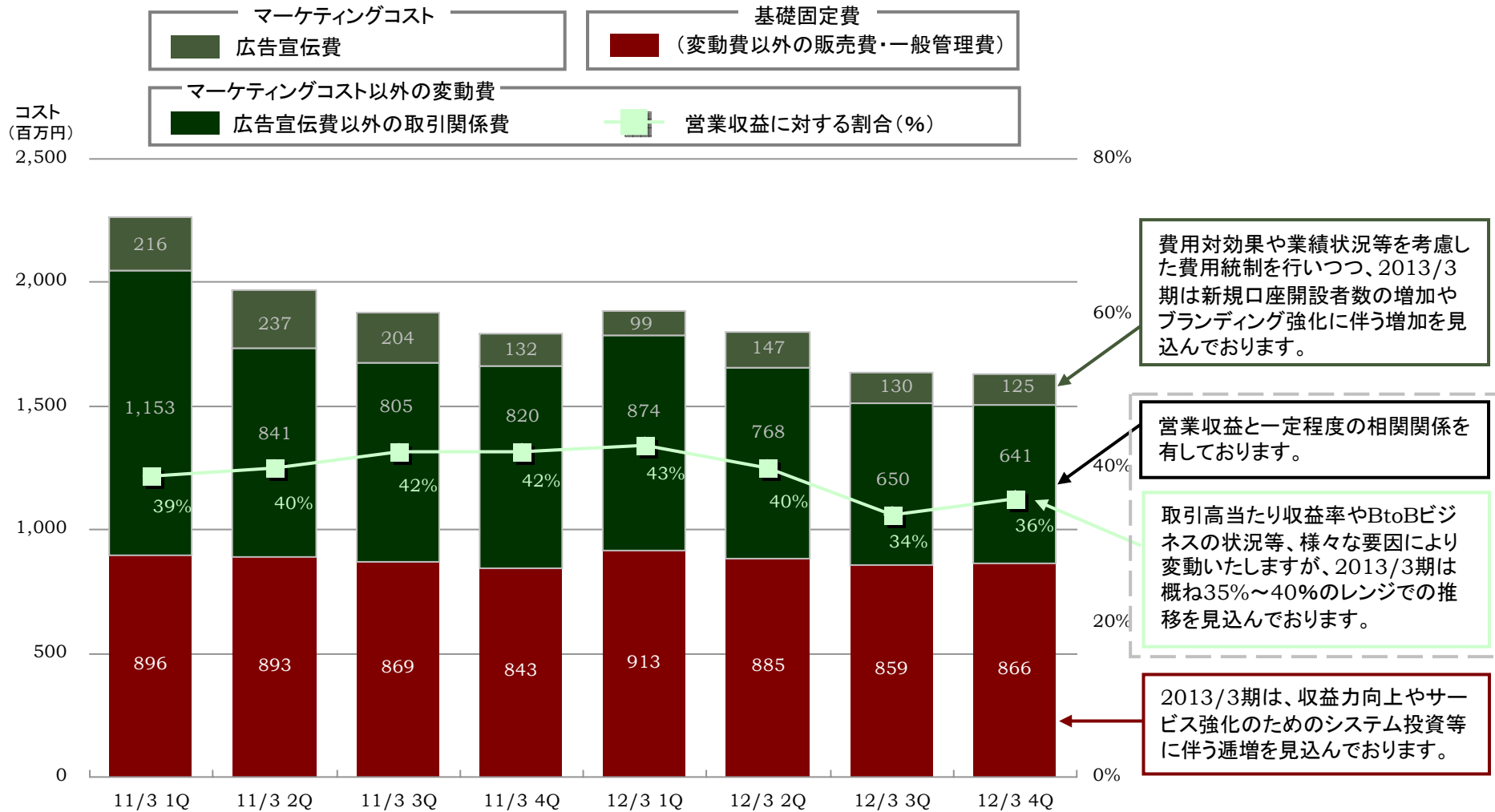
1. 主に支払手数料や広告宣伝費をはじめとする取引関係費(変動費)が減少した結果、コスト全体では前四半期比0.4%減の1,633百万円となった。
2. システム保守料の増加や新規案件によるシステム増強などの複合的要因によりシステム関連費用が増加し、前四半期比5.7%増の359百万円となった。



Money Partners Group

四半期固定費及び変動費推移と今後の動向

■ 主要な固定費・変動費の推移



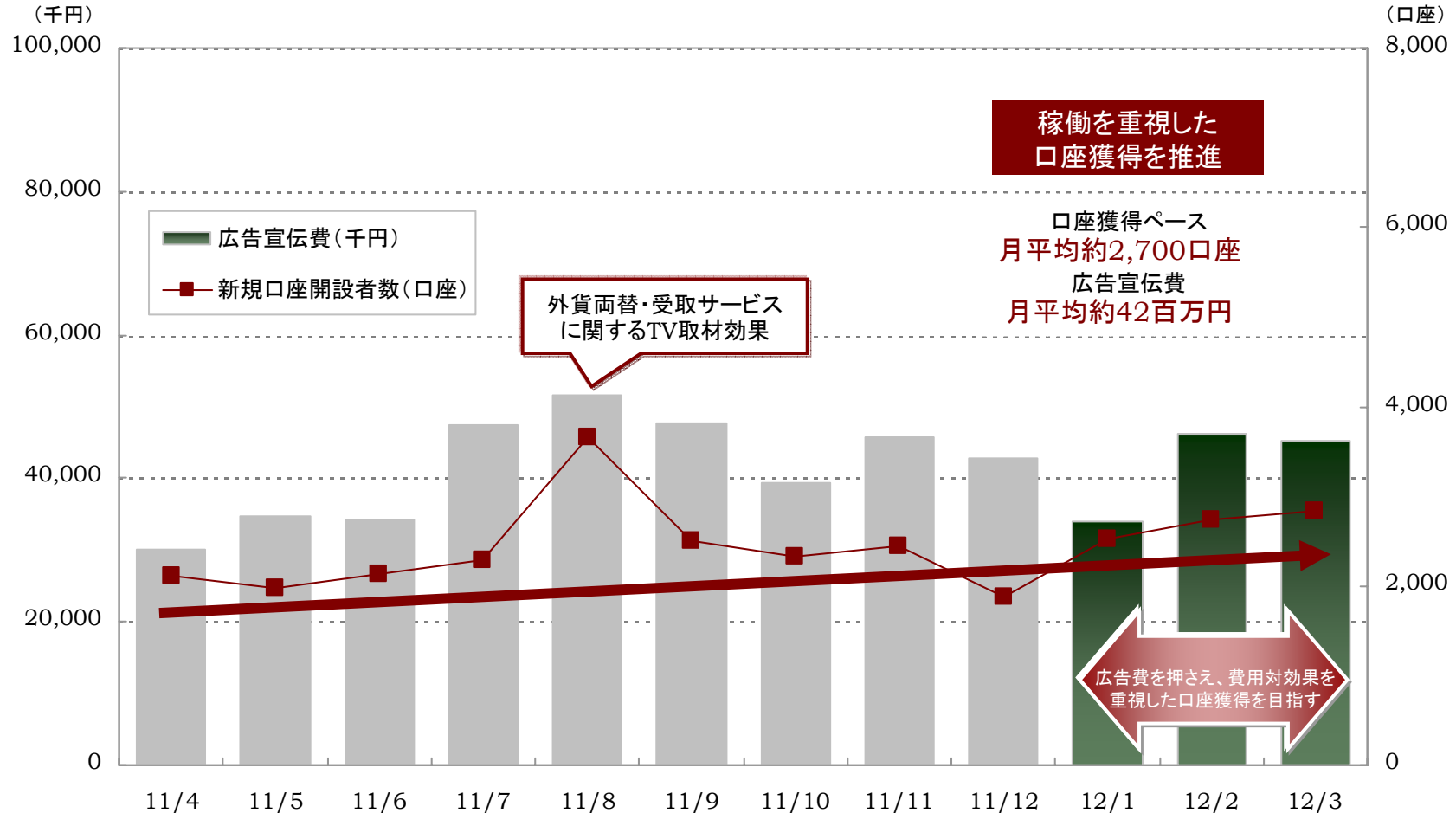
2012/3 4Qの固定費・変動費のコスト構造には大きな変化は生じておりません。



Money Partners Group

月次広告宣伝費の推移

■ 広告宣伝費及び新規口座開設者数の推移



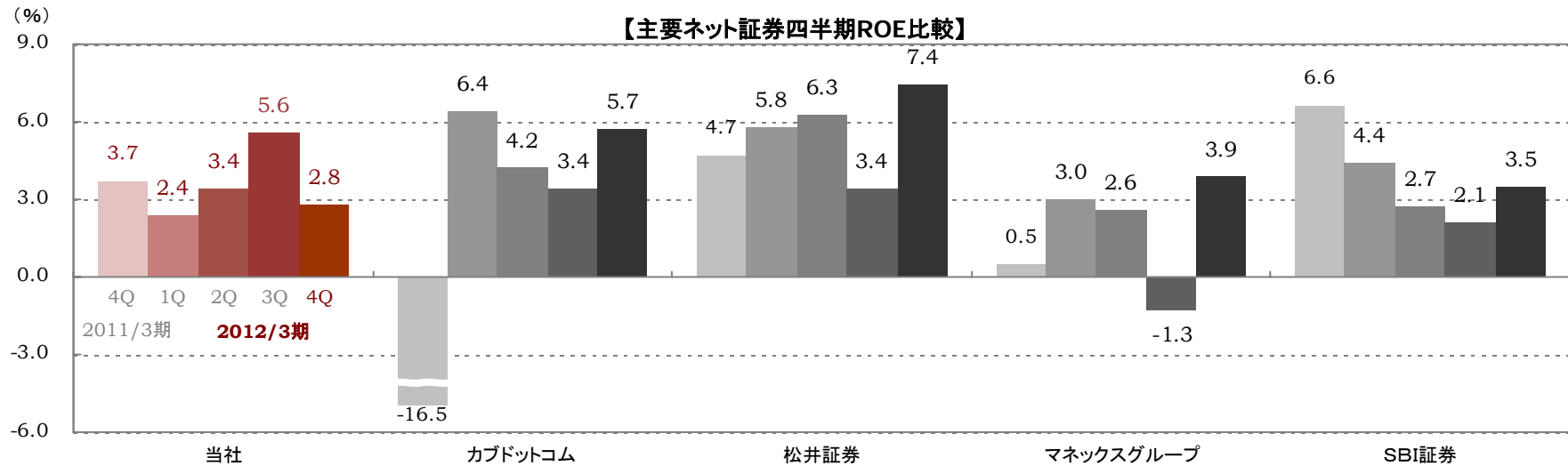
前四半期と比べ広告宣伝費を適切に抑制しつつ、効率の良い口座獲得を実現。



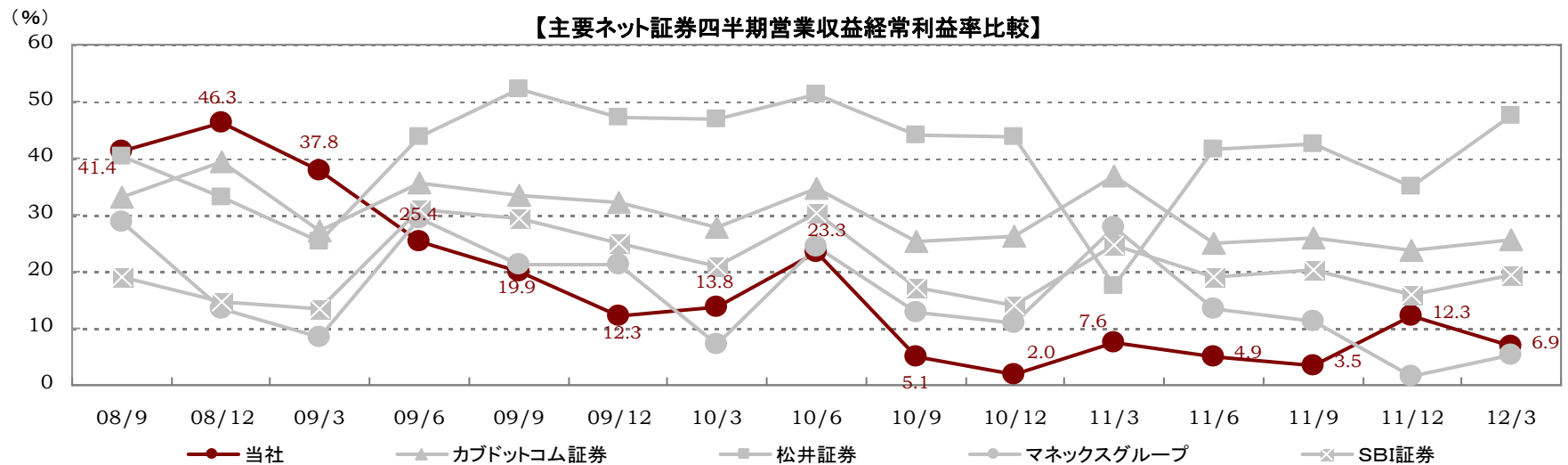
主要経営指標推移

Money Partners Group

■ 主要ネット証券とのROE及び営業収益経常利益率比較



※: 四半期ROEにつきましては、下記計算式により年換算して算出しております。
 $ROE(年換算) = (四半期純利益 \times 4) \div ((四半期期首自己資本 + 四半期期末自己資本) \div 2) \times 100$ なお、他社データにつきましては、各社IR資料より当社が作成しております。





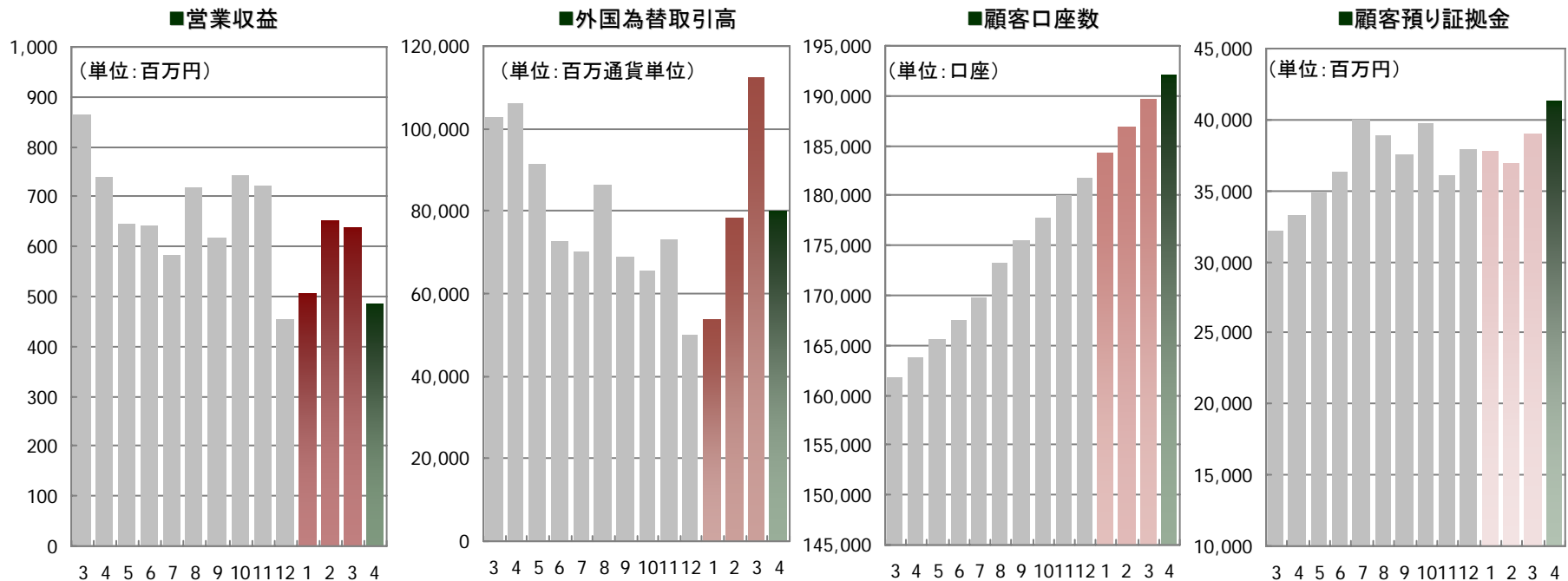
月次業績指標推移

Money Partners Group

■ 月次営業収益、外国為替取引高、顧客口座数、顧客預り証拠金の推移

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
営業収益(百万円)	863	738	645	643	584	720	617	744	721	456	508	652	638	485
外国為替取引高 (百万通貨単位)	102,934	106,089	91,504	72,784	70,070	86,419	68,855	65,476	73,015	50,117	53,593	78,387	112,254	80,325
顧客口座数(口座)	161,785	163,794	165,636	167,644	169,764	173,298	175,640	177,820	180,145	181,877	184,260	186,877	189,570	192,007
顧客預り証拠金(百万円)	32,152	33,195	34,799	36,317	39,932	38,851	37,526	39,751	36,029	37,888	37,732	36,935	39,034	41,341

※営業収益、取引高は、ホワイトラベル提供及び大証FXマーケットメイク業務に伴い発生した収益・取引を含んでおります。顧客預り証拠金は、ホワイトラベル提供に伴う預り証拠金を含んでおります。それぞれの計数には2011年8月より開始したCFDに関する数値を含めております。



Ⅱ.2012年3月期の取組みと重点課題の進捗状況





2012年3月期の主な取組み

システム関連の取組み

- ◆ ユーザーの利便性を向上させる取引ツールの継続的な機能追加を実施
- ◆ システムの信頼性向上とシステムコスト効率化を両立するためのデータセンター集約を完了
- ◆ パートナースFX対応のスマートフォン用FX取引アプリ『Hyper Speed Touch』をリリース
- ◆ リッチクライアント取引ツール「HYPER SPEED NEXT」のパフォーマンス向上と新機能の実装

顧客向けサービス関連の取組み

- ◆ 顧客目線に立った、会員専用サイトの更なる改善、リニューアルを推進
- ◆ “負けない”顧客育成の拡充を目指し、「トレードレポート」をバージョンアップ
- ◆ 代用有価証券サービスの評価掛目変更により、顧客の資金効率向上

顧客基盤拡大に向けての取組み





- ◆ 強力な約定力を維持したまま、提供スプレッドの更なる縮小による競争力強化
- ◆ スマートフォンユーザーからの新たな顧客導線の開拓
- ◆ 金・銀を対象としたCFD取引サービス「CFD-Metals」のサービスイン
- ◆ 初心者向け取引「Partners FX nano」のサービス改良
- ◆ 両替サービスの認知度向上による実需ニーズ顧客の取り込み(成田両替・受取サービスのバージョンアップ)

BtoBビジネスに関する取組み

- ◆ 韓国でFX業務を行う証券会社へのカウンターパーティサービス提供開始
- ◆ 大手事業法人・金融法人等とのアライアンスの模索



重点課題の進捗状況

	2012/3期の主な取り組み	取り組み結果と評価
顧客育成による 事業基盤の強化	<ul style="list-style-type: none"> • トレードレポート等顧客向けサービスの強化 • FX取引顧客化への導線の多様化 	 <ul style="list-style-type: none"> • トレードレポート紹介ページのリニューアル、対象顧客への訴求等 • 女性向けサイトオープン等新たな試みを実施
コスト構造の 更なる筋肉質化	<ul style="list-style-type: none"> • システムコスト、口座獲得コストの最適化 	 <ul style="list-style-type: none"> • H/Wの構成見直しに伴うコスト削減を実現 • 広告コストは継続的に見直しを実施
内部成長の推進	<ul style="list-style-type: none"> • プロパー顧客の取引拡大 • 取引高あたり収益性の向上 	 <ul style="list-style-type: none"> • スプレッドナロー化キャンペーンの実施やセミナーの開催等によりプロパー顧客の取引拡大に取組み中 • 大ロット超短期取引への対応等に加え、低ボラティリティ下でも一定の収益を獲得するべく改善を継続中
実需向け サービスの強化	<ul style="list-style-type: none"> • 外貨両替・受取サービスの知名度向上及び利用促進 	 <ul style="list-style-type: none"> • 外貨両替・受取サービスは順調に推移 • 当社の差別化戦略のひとつとして、新サービスの開発や既存サービスの強化策実施
新商品 新サービスの展開	<ul style="list-style-type: none"> • 新しい店頭デリバティブ商品のサービスイン • ユーザーオリエンテッドな新サービスの開発・展開 	 <ul style="list-style-type: none"> • CFD取引サービスリリース以降、顧客への訴求を積極化 • 資金移動業の登録申請に着手するとともに、新サービスの検討・開発に着手

Ⅲ. 今後の戦略及び重点施策





2013年3月期の重点施策

重点課題

重点施策

顧客基盤拡大

1. ブランディング強化とマス戦略展開による顧客獲得



収益機会創出

2. 取引系ツールの強化およびコンテンツ拡充



収益力強化

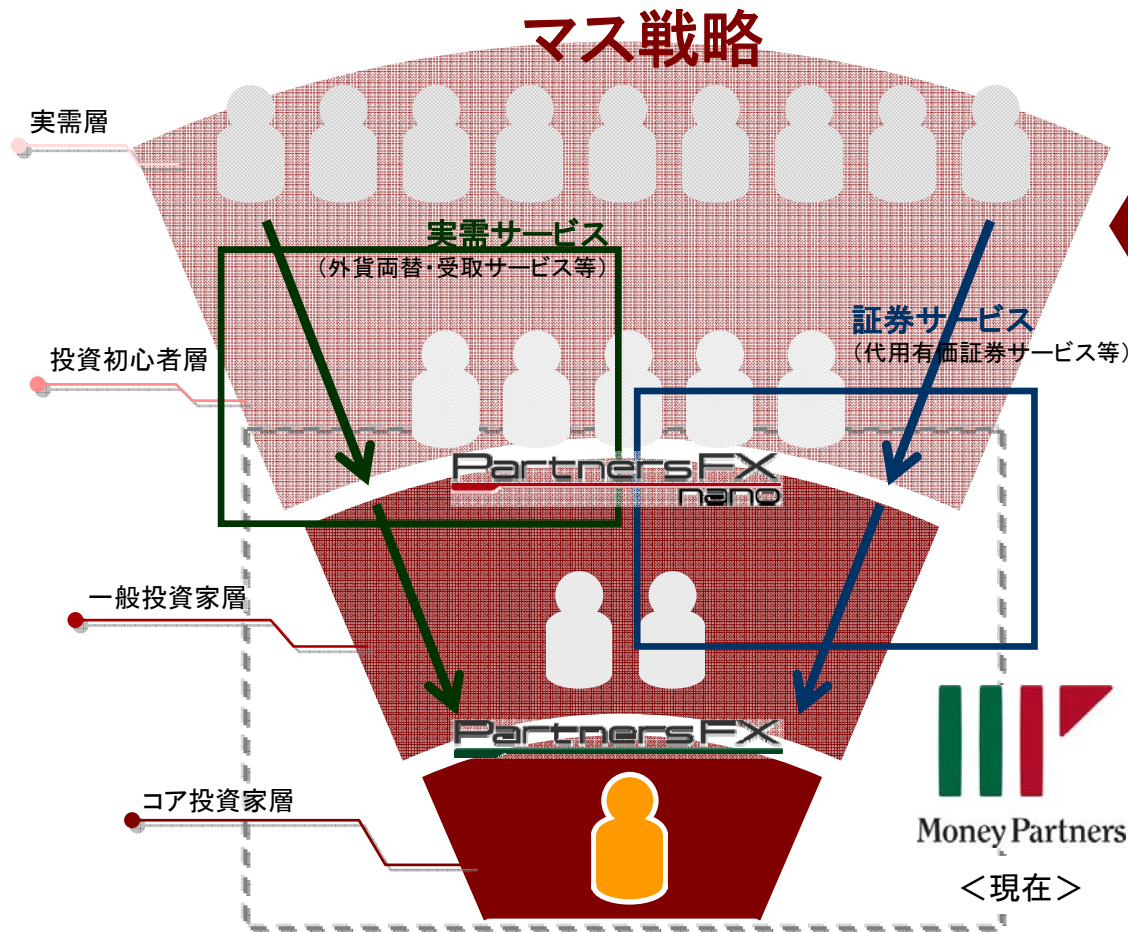
3. 基幹システム刷新による収益性改善



Money Partners Group

2013年3月期の重点施策

1. ブランディング強化とマス戦略展開による顧客獲得



ブランディング

SUPER GT300 「マネパランボルギーニ」スポンサード



京成スカイライナー テーブルステッカー広告展開

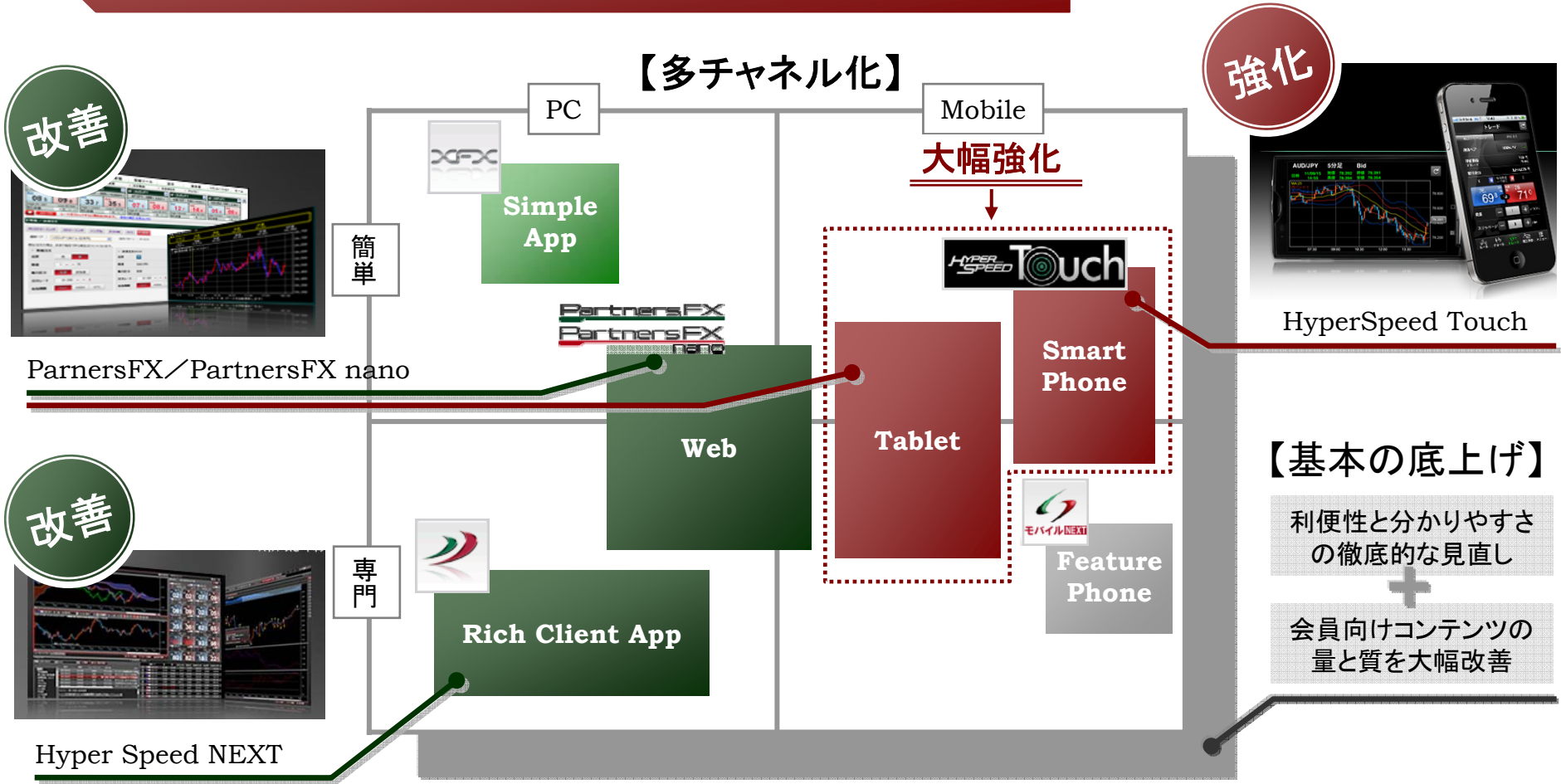


マネパ知名度向上 × 初心者層・実需層取り込みにより顧客基盤拡大を図る



2013年3月期の重点施策

2. 取引系ツール強化およびコンテンツ拡充



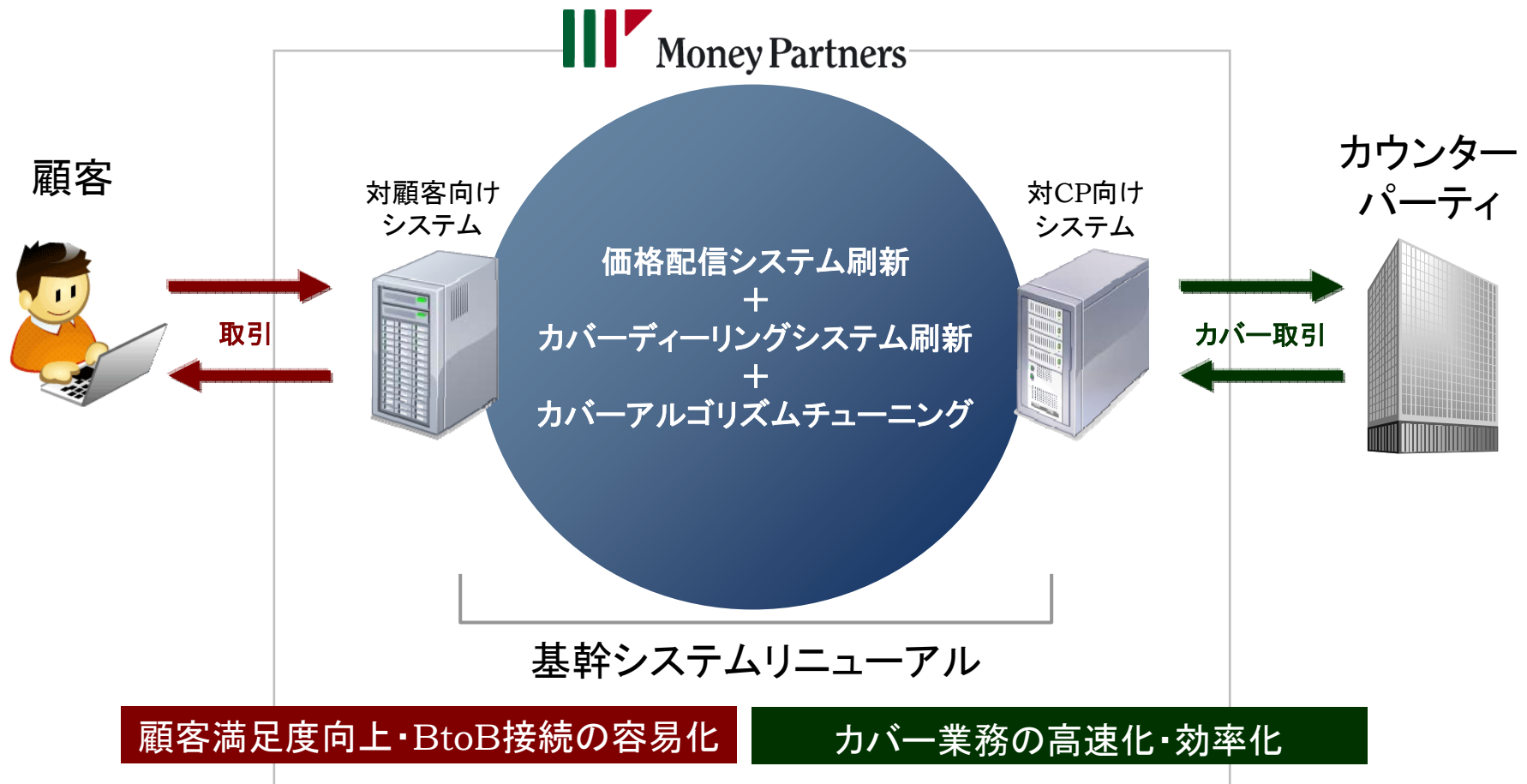
スマートフォン・タブレット対応強化を加速させ、モバイルからの取引拡大を図る



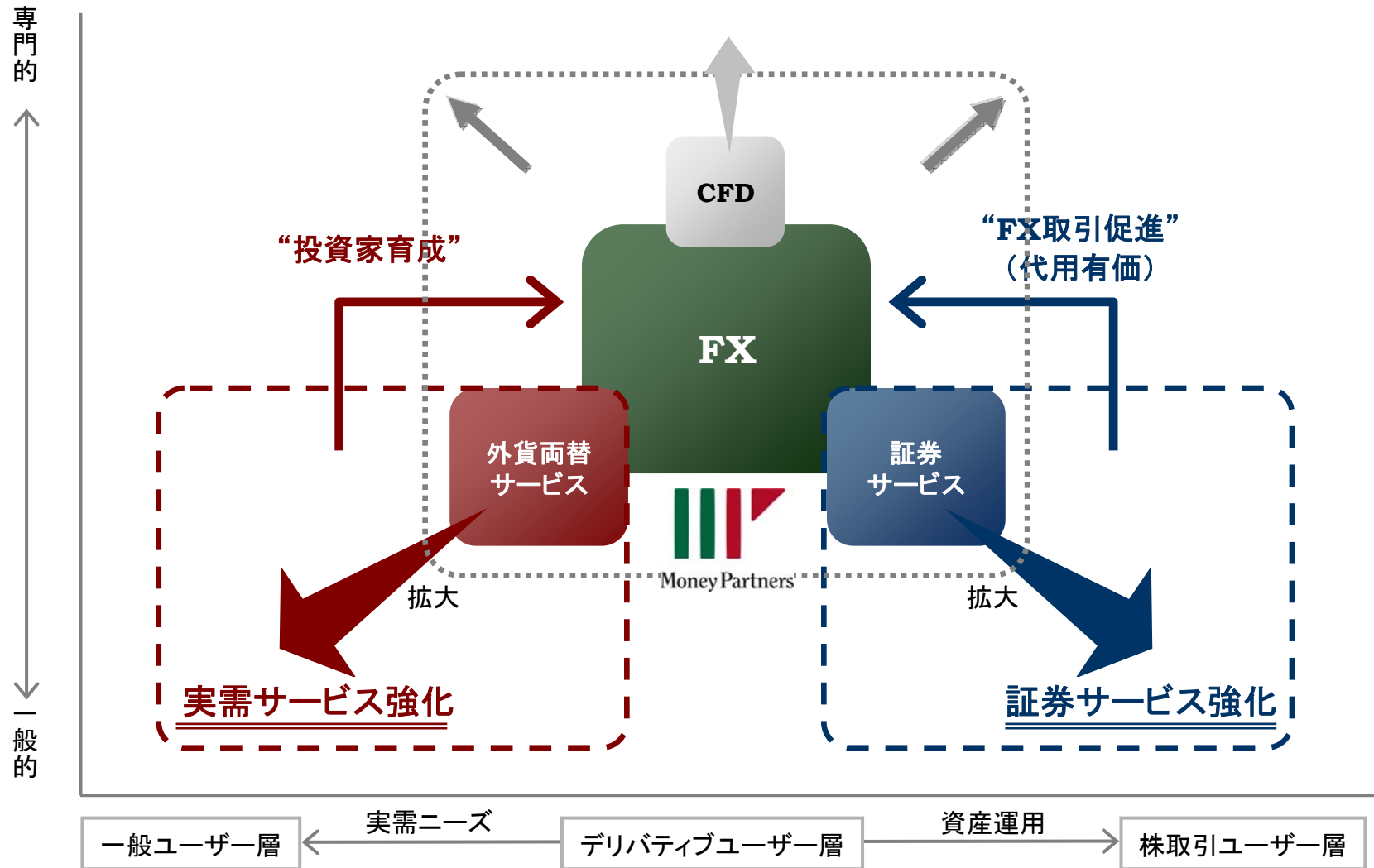
Money Partners Group

2013年3月期の重点施策

3. 基幹システム刷新による収益性改善



大規模なシステム刷新と一層のカバーアルゴリズム改善で低スプレッド競争へ対抗



実需サービス・証券サービスの強化拡大を通してコア事業のFX成長を実現する

IV. 当社の経営目標及び株主還元について



ROE及び営業収益経常利益率の早期回復

- 当社は、企業価値の最大化のため自己資本を効率的に活用することを重視しております。
- このために効率的な収益構造の実現を目指して参ります。
- 効率性を計る尺度として、自己資本利益率(ROE)及び営業収益経常利益率を重要な経営指標として位置づけております。

▶ **2012年3月期第4四半期(2012年1~3月)のROEは2.8%**

※: 四半期ROEにつきましては、下記計算式により年換算して算出しております。
ROE(年換算) = (四半期純利益 × 4) ÷ ((四半期期首自己資本 + 四半期期末自己資本) ÷ 2) × 100

▶ **2012年3月期第4四半期(2012年1~3月)の営業収益経常利益率は6.9%**

営業収益の回復を早期に実現することにより、ROE、営業収益経常利益率の回復を目指して参ります。

業績向上に取り組み、株主利益の向上に努める

利益還元方針

配当性向：連結当期純利益の30%を目処

配当機会：中間及び期末（年2回）

当社株式を長期保有していただいている株主の皆様に対し、配当性向の引き上げによる利益還元の強化と、年2回の配当実施による利益還元機会の充実を図り、株主利益の最大化を目指してまいります。

	2011年3月期				2012年3月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
当期純利益 (百万円)	394	59	△26	87	56	80	134	66
配当金の総額 (百万円)	139		30		30		75	
期末発行済 株式総数(株)	321,480 (内、自己株式10,623)		321,480 (内、自己株式20,023)		321,480 (内、自己株式20,023)			
1株当たり 配当金	450円		100円		100円		250円 (予想)	

2012年3月期 決算説明会



Money Partners Group

株式会社マネーパートナーズグループ

参考資料



当社の概要と沿革について
当社の事業内容、収益構造、通貨ペアと売買高比率について



Money Partners Group

グループ概要(平成24年3月31日現在)

- 商号 株式会社マネーパートナーズグループ
- 本社 〒106-6016 東京都港区六本木1-6-1 泉ガーデンタワー16F
- 代表取締役社長 奥山 泰全
- 設立日 2005年6月10日
- 資本金 17億8,622万円

- 主な事業内容 持株会社

- 関連会社 株式会社マネーパートナーズ

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会、社団法人日本資金決済業協会
登録番号：関東財務局長（金商）第2028号

事業内容：1. 金融商品取引法に基づく外国為替証拠金取引、有価証券関連業務及びこれに付随する一切の業務

- 2. 外国通貨の売買、売買の媒介、取次ぎもしくは代理、その他これに付随する業務
- 3. 金融商品取引業及びこれに付随する業務
- 4. 商品先物取引業

株式会社マネーパートナーズソリューションズ

事業内容：1. 外国為替証拠金取引をはじめとする金融商品取引に関するコンピュータシステムの設計、開発、販売、賃貸および保守
2. 外国為替証拠金取引をはじめとする金融商品取引に関するマーケティング、企画、調査、研究およびコンサルティング



社是

DON'T STOP!

とめない、とまらない。

企業理念

投資家の保護育成と顧客第一主義に努め、
外国為替証拠金取引市場の健全な発展に寄与する。

カスタマー
ファースト

イノベーション

バリューアップ

コンプライアンス



年月		事項
平成17年6月	新設分割	□ 一般投資家向けにインターネット等を通じた外国為替証拠金取引サービスを提供することを目的として、株式会社マネーパートナーズを東京都港区西麻布(資本金100,000千円)に設立し、外国為替取引事業を開始
平成18年9月	システム子会社設立	□ システム開発力の強化を目的として、株式会社マネーパートナーズソリューションズを100%出資子会社として設立
平成19年6月	上場	□ 大阪証券取引所ヘラクレスに上場(証券コード:8732)
平成20年3月	金融商品取引業の変更登録完了	□ 有価証券の取扱い業務開始
平成20年4月	格付取得	□ 株式会社日本格付研究所(JCR)より新規に格付を取得(短期優先債務:J-3)
平成20年10月	持株会社化	□ 株式会社マネーパートナーズグループに商号変更 □ 吸収分割により、全事業をマネーパートナーズ分割準備株式会社(10月1日付で株式会社マネーパートナーズに商号変更)に承継し持株会社体制へ移行
平成20年10月	100通貨単位でサービス開始	□ 100通貨単位から始められるFX取引サービス「パートナーズFXnano」リリース □ 「パートナーズFXnano」専用アプリ「XFX」も同時リリース
平成21年7月	大証FX参加	□ 「大証FX」へマーケットメイカーとして参加
平成22年9月	次世代版FX取引ツールリリース	□ パートナーズFX専用取引ツールの次世代版「HyperSpeed NEXT」をリリース
平成23年3月	外貨両替・受取サービス開始	□ 外貨を現金(紙幣)で出し、成田で受取可能
平成23年8月	CFD取引取扱い開始	□ 金/米ドル、銀/米ドルの2銘柄を対象としたOTC(店頭相対取引)によるCFD(差金決済取引)である、「CFD-Metals」の取扱いを開始
平成23年10月	スマートフォン用アプリ公開	□ パートナーズFX対応のスマートフォン用FX取引アプリ「HyperSpeed Touch」の公開が「App Store」及び「Android Market」にて開始
平成24年2月	資金移動業の登録	□ 定款の事業目的に子会社等の業務として「資金移動業」を追加

【外国為替証拠金取引に関わる法改正や規制強化と、業界およびマーケットの動き】

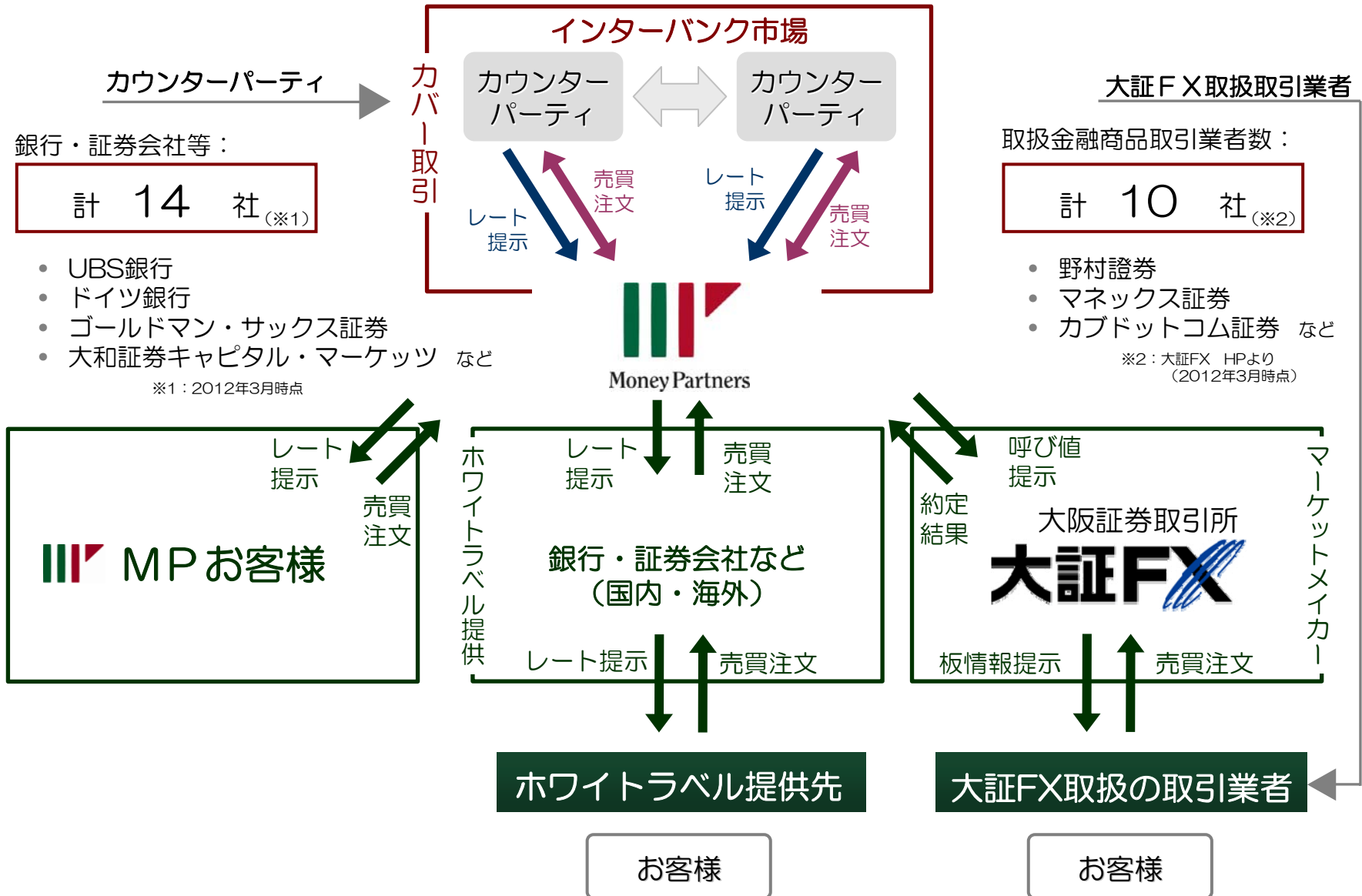
1998年外為法改正	▶	為替取引の完全自由化 マーケットオリエンテッドな取引商品として個人投資家の取引が活発化
2005年改正金先法施行	▶	乱立していたFX業者が一気に淘汰（600社→100社強へ）
2007年9月金商法施行	▶	FX業者が証券会社と同種扱いの金融庁管轄になり、透明性や内部管理体制の更なる厳格化が進展
2009年8月改正内閣府令施行	▶	預り証拠金の区分管理方法を金銭信託に一本化 FX取引に係るロスカットルール整備・遵守の義務化
2010年8月改正内閣府令施行	▶	証拠金規制が導入され、高レバレッジに対する規制が強化
2011年6月税制改正法案成立	▶	申告分離課税が適用（一律20%）され、繰越損失控除が3年間可能に 2012年1月決済分より適応

めまぐるしく変化する市場環境の中、着実な成長と発展
マネーパートナーズはFX取引の大手企業としてプレゼンス向上

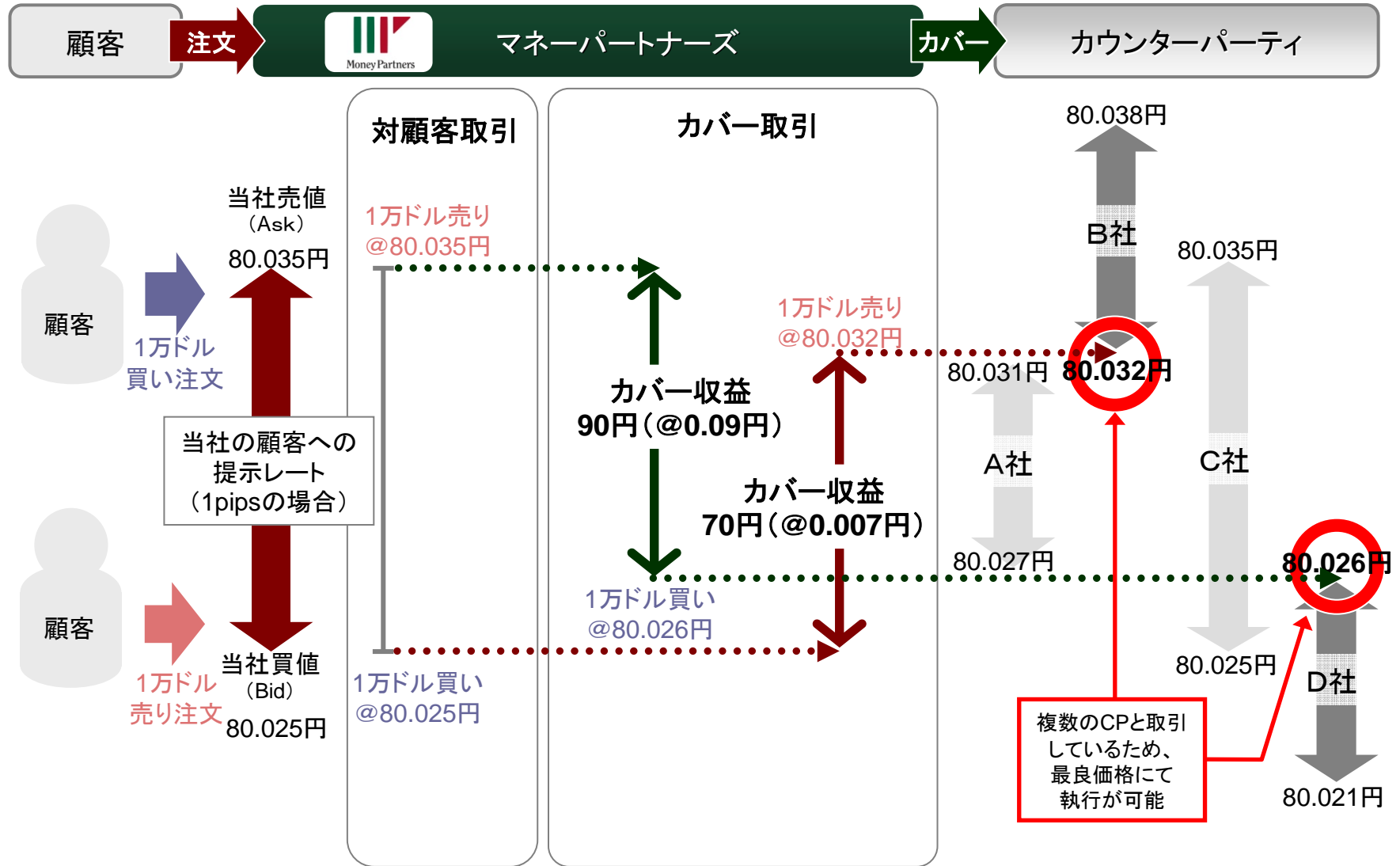


Money Partners Group

当社グループの収益構造(ご参考)



当社グループの収益構造(ご参考)










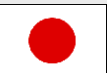



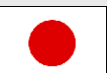

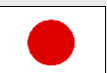














Money Partners Group

マネーパートナーズの取扱い通貨ペアと売買高比率

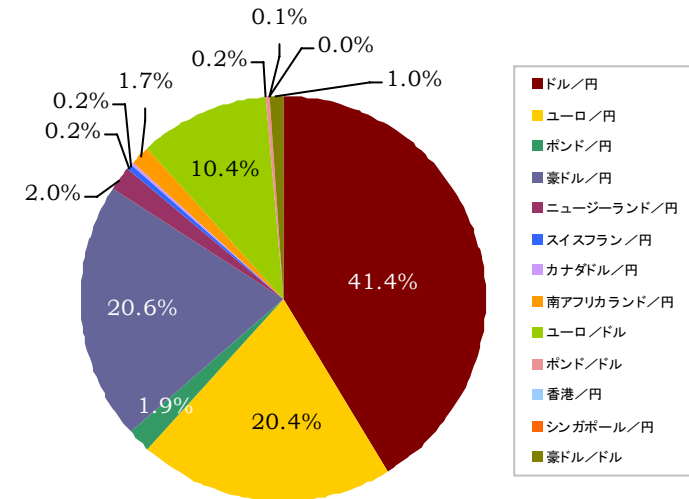
米ドルやユーロといった主要通貨をはじめ、高金利通貨として人気を集めるオーストラリアドル・ニュージーランドドルなどを取扱っています。

各通貨ペアとも、インターバンク市場での取引単位の約100分の1となる10,000単位での取引が可能。さらに投資家のニーズに応える形で『FXnano』を開始し、一部通貨ペアに関しては、約10,000分の1となる100単位での取引を実現。

当社取扱い通貨ペア

		USDJPY 米ドル円			AUDJPY 豪ドル円
		EURJPY ユーロ円			NZDJPY NZドル円
		GBPJPY 英ポンド円			ZARJPY 南アランド円
		CADJPY カナダドル円			CHFJPY スイスフラン円
		EURUSD ユーロ米ドル			GBPUSD 英ポンド米ドル
		HKDJPY 香港ドル円			SGDJPY シンガポールドル円
		AUDUSD 豪ドル米ドル			

下記グラフは当社の2012年1月-3月度の取扱い通貨ペア別の売買高比率をあらわしたものです。



今後もお客様のニーズに合わせて取扱い通貨を増やしていく予定です。



取扱い商品に係るリスクおよび手数料等について

パートナーズFX、パートナーズFXnanoおよびCFD-Metalsは、取引時の価格またはスワップポイントの変動、およびスワップポイントは支払いとなる場合があることにより、売付時の清算金額が買付時の清算金額を下回る可能性があるため、損失が生じるおそれがあります。

また、証拠金の額以上の投資が可能のため、その損失の額が証拠金の額を上回るおそれがあります。売付価格と買付価格とには差額(スプレッド)があります。

取引手数料は無料です。ただしパートナーズFXについては、受渡取引および電話での決済注文に限り、1通貨単位あたり最大0.40円の手数料をいただきます。

パートナーズFXおよびパートナーズFXnanoの取引に必要な証拠金は、取引の額の4%以上の額で、証拠金の約25倍までの取引が可能です。法人コース(パートナーズFXのみ)の場合、1万通貨単位あたり5千円から2万円で、通貨ペアごとに異なり、証拠金の約100倍までの取引が可能です。

CFD-Metalsの取引に必要な証拠金は、取引の額の5%以上の額で、証拠金の約20倍までの取引が可能です。

国内上場有価証券の売買等に当たっては、最大で約定代金の2.625%の手数料(消費税込み)、最低手数料は取引形態等により異なり最大で2,625円(消費税込み)をいただきます。国内上場有価証券等は、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の価格の変動等および有価証券の発行者等の信用状況(財務・経営状況を含む)の悪化等それらに関する外部評価の変化等を直接の原因として損失が生ずるおそれ(元本欠損リスク)があります。

取引開始にあたっては契約締結前書面を熟読、ご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願い致します。

〈商号〉株式会社マネーパートナーズ(金融商品取引業者)

〈登録番号〉関東財務局長(金商)第2028号

〈加入協会〉日本証券業協会 一般社団法人金融先物取引業協会 日本商品先物取引協会 社団法人日本資金決済業協会

2012年3月期 決算説明会



Money Partners Group

株式会社マネーパートナーズグループ